

令和8年度 山梨県立大学9月学位記授与式 祝辞

山梨県立大学 理事長・学長 早川 正幸

本日ここに、令和8年度山梨県立大学9月学位記授与式を挙行するにあたり、一言、お祝いの言葉を申し上げます。

今年の夏もまた、地球規模の気候変動の影響を強く感じさせる記録的な猛暑が続きました。各地で相次ぐ豪雨や異常気象は、私たちが直面する環境問題の深刻さを改めて認識させるものでありました。一方で、朝夕には秋の訪れを感じるひんやりとした空気が漂い、季節の確かな移ろいを実感する頃となっております。

この佳き日に、日頃の研鑽の成果を実らせ、晴れて学位を授与されました学部卒業生並びに大学院修了生の皆さん、誠におめでとうございます。山梨県立大学を代表し、皆様のこれまでの努力と栄誉に対し、心よりお祝いを申し上げます。

また、本日まで卒業生・修了生の皆様を温かく見守り、支えてこられたご家族、ご親族の皆様に深く敬意を表しますとともに、心よりお慶び申し上げます。併せて、皆さんを学問の道へと導いてこられた指導教員をはじめ、本学の教職員に感謝の意を表します。

さて、皆さんが本学で学びを深めてこられたこの数年間、世界そして日本社会は、かつてない速度で変化してまいりました。とりわけ生成 AI をはじめとするデジタル技術の進展は、産業構造や働き方のみならず、社会のあり方そのもの

のに大きな変革をもたらしています。私たちは今、Society 5.0 の実現に向けた歴史的な転換期の只中にあると言っても過言ではありません。

しかしその一方で、地球環境問題やエネルギー問題、少子高齢化と地域社会の持続可能性への課題、さらには国際情勢の不安定化など、従来の経験や価値観だけでは解決できない問題が山積しています。

このような予測困難な時代において求められるのは、単なる知識や技術ではありません。膨大な情報の中から本質を見極める洞察力、既存の枠組みにとらわれない柔軟な思考力、そして多様な人々と協働しながら課題解決に取り組む実践力であります。

また、AI をはじめとする高度な技術が社会に深く浸透する今だからこそ、「技術をどう使うか」だけでなく、「その技術によってどのような社会を築くのか」という倫理的な視点がこれまで以上に重要になっています。技術を評価し、その価値を判断する主体は、あくまでも人間であります。その判断を支えるものこそ、皆さんが本学で培ってこられた教養、感性、そして理性にほかなりません。

自ら考え、自ら判断し、その答えを実践し、地域社会や国際社会へ還元していくことこそが、未来を担う皆さんの重要な使命であると私は確信しております。

本学は、建学の理念の一つとして「未来の実践的担い手」の育成を掲げてまいりました。本日、この学び舎から新たな一步を踏み出す皆さんには、高度な専門性と豊かな人間性、そして確かな実践力を兼ね備えた人材として、山梨から世界へと活躍の場を広げ、それぞれの分野において力を発揮されることを心から期待しております。

これから歩まれる道は、決して平坦なものばかりではないかもしれません。しかし、困難や未知の課題に直面したときこそ、本学で培った「学び続ける力」と「挑戦する心」を思い起こしてください。生涯にわたり探究心を持ち続け、様々な人々との対話を大切にしながら、豊かな人生を築いていかれることを願っております。

結びに、皆さんのこれからの人生が、高い志と豊かな人間性に支えられ、地域と世界の未来を切り拓く実り多き歩みとなりますことを心より祈念いたしまして、私の祝辞といたします。

ご卒業並びに大学院修了、誠におめでとうございます。

令和8年9月30日

山梨県立大学 理事長・学長 早川 正幸